

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和5年度分)

＜県の評価等＞

施設所管部名： 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	伊賀上野びよクエの森(三重県上野森林公園) (伊賀市下友生字松ヶ谷1番地)
指定管理者の名称等	NPO法人 ECCOM 理事長 森 豊 (三重郡菟野町千草 3927-1)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 森林公園の森林、植物等の管理に関する業務 2 森林公園の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 森林公園の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による森林公園内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他森林公園の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R4	R5	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B			普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所の早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めている。 また、森林の整備は公園ボランティア「モリメイト」との協働により適切に行われている。
2 施設の利用状況	A	A			年間施設利用者数は119,276人、目標達成率は145.5%となり、A評価基準を上回り、過去最高の利用者数を更新したことは評価できる。
3 成果目標及びその実績	A	A			施設利用者の満足度は93.4%(目標80%)、自然体験型イベント参加者の満足度は96.0%(目標92%)となり、ともに目標を達成している。

※「評価の項目」の県の評価：

- 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ol style="list-style-type: none"> ① 成果目標については、年間の施設利用者数、施設利用者の満足度、自然体験型イベント参加者の満足度の全ての指標で目標を達成している。 ② 森林、植栽木、芝生等の植物管理を適正に実施し、良好な景観の維持に努めている。利用施設の保守点検、日常点検、清掃を適正に実施しており、利用者が安全で快適に利用できる環境を整えている。 ③ 利用者のために、インターネットによる広報や利用受付を行い、イベント情報を中心とするメールマガジンを希望者へ配信するなど情報発信を積極的に行っている。また、伊賀地域の小学校、幼稚園、保育園等の子ども達を対象とした自然体験プログラムを開催するなど、森林教育の場としての園内利用のPRに努めている。 ④ イベントについては、感染症対策を徹底したうえで、観察会等の自然体験型イベントやものづくり、展示会等も含めて、146回(このうち自然体験型イベントは107回)開催しており、自然体験型イベント参加者の満足度は96.0%と高く、積極的に自然とふれあう場を提供している。
--------	--

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">⑤ 公園ボランティアの「モリメイト」との協働で森林の整備を実施し、動物(野鳥、昆虫、小動物)への影響も含めた生態系に配慮した管理を行っている。また「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除等の取組を行っており、生物多様性の確保に努めている。⑥ 業務執行体制については、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員を森林公園管理事務所に常勤として3名、非常勤として3名配置している。また、危機管理に関して、マニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を平日・休日ともに整備し、適切に対応している。⑦ 利用者のニーズにあった公園管理を適切に実施したことにより、令和5年度においても全ての目標を達成し、森林、環境学習のための利用者の増加や、より良いサービスの提供につなげている。今後も引き続き、利用者の満足度向上につながる新たなサービスの提供に取り組まれない。 |
|--|--|

<指定管理者の評価・報告書(令和5年度分)>

指定管理者の名称: NPO法人 ECCOM

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①三重県上野森林公園管理事業の実施に関する業務

誰もが日常から気持ちよく来園できるよう、植物管理、施設管理をはじめとした園内管理を徹底するとともに、「三重県上野森林公園」の持つ自然環境を最大限に活用したイベントを実施することにより、公園のPR並びに利用者の増加に努め、以下のような事業を行った。

ア)三重県上野森林公園の施設及び設備の利用に関する業務

- ・ 窓口業務として、自然情報や公園利用に関する問い合わせに対応し、開花状況の提供や散策ルートなどの提案を行った。また、電話やメールによる各種問い合わせの対応を行うとともに、イベント申込の利便性を高めるため、スマートフォンやパソコンから自動受付できる予約サイトを導入した。
- ・ 園内各施設の団体利用に関して、窓口での利用申請受付のほか、インターネットによる広報や受付も行い、事前に施設の情報提供や利用方法の案内を行った。また、利用者の要望を受け、職員が自然観察ガイドや自然体験教室を実施するなど、利用者へのサービスに努めた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後も感染症対策として、園内の利用の多い場所にアルコールを設置し、手指の消毒を励行した。
- ・ ビジターコテージ展示室では、図書コーナーと木製の遊具を設けたことで、館内の滞在者数、滞在時間ともに増加し、好評を得ることができた。また、本物の生きものを間近で見てもらえる機会を拡充するため、両生類や昆虫類の飼育技術を持ったスタッフが中心となり、さまざまな生きものの生体展示を行った。具体的には、「アカハライモリ」(4月～3月)、「アズマヒキガエル」(4月～3月)、「シレーゲルアオガエル」(4月～11月)、「カブトムシ」(7月～8月)、「ヒョウモントカゲモドキ」(5月～3月)に加えて、マンネリ化を防ぐために、スタッフが個人で飼育している生きものを用いて「世界の両生類展」(4月～5月)などの生体展示を行った。特に、ビジターコテージ玄関口に設置している「アズマヒキガエル」の展示は、野外で捕まえたエサを自由に与えられる体験型の展示となっており、子どもから大人まで多くの利用者に好評であった。
- ・ 展示室では、「春の公園スケッチ展」(4月)、「『ムシ・むし・虫』写真展」(4月～5月)、「新緑の森クイズラリー」(5月)などを開催した。また、みえ森づくりサポートセンターより三重の木材を用いた遊具を借りて「もりボールであそぼう！」(6月～7月)、「みえトイキッズスペースであそぼう！」(7月～9月)を開催した。
- ・ ビジターコテージホールでは、桜のデコレーションやハロウィン、クリスマスツリー、門松など季節に合わせた展示を設置するなど、利用者が何度来ても楽しんでもらえるような工夫を行うことで、リピーターの増加につながった。
- ・ ビジターコテージ周辺では、ハンモックやトランポリン、木のおもちゃや草滑りを設置した。また、稲の成長とメダカやオタマジャクシなど水棲生物を間近に見られる田んぼビオトープの設置など、子どもが遊ぶだけでなく、大人も楽しめる仕掛けと雰囲気をつくった。それにより、子ども連れの家族や大人同士のグループなど多様な利用者が楽しそうに過ごす様子が見られた。
- ・ くつろぎのスペース作りとして、ビジターコテージのテラスや見晴らしの良い前庭、陽だまりの丘など季節ごとのオススメの場所にガーデンテーブルとチェアを設置した。休憩場所を提供することで、利用者同士で交流する様子が見られた。これまでの利用形態として主流であった「ウォーキングや自然観察」から、「くつろぎの場所としての公園」という利用形態の定着が促進された。
- ・ 開園から25年が経過する中で、園内に多数設置されている注意看板が劣化し、自然景観が損なわれていることが課題となっていたため、令和2年度より、「公園の自然と調和し、親しみやすいデザイン」をテーマとしてリニューアルを進め、令和4年度に設置した現在地のわかる標識(36箇所)について、よりわかりやすいように改良を加えて更新し、利便性を向上させた。
- ・ セルフで公園を楽しめるプログラムとして、「ハンモック」「双眼鏡」などの無料貸出しを実施した。親子連れを中心に大変好評を得ることができ、新たな公園の魅力が付加されることにつながった。

- ・ コロナ禍以降、利用者が大幅に増加したことへの対策として、季節ごとに見所を選定したセルフガイドボードを延べ約 50 箇所設置したところ、「季節ごとに新たな発見があって嬉しい」という声が多く聞かれた。また、公園のシンボルであるサギソウの開花時期に合わせ、大駐車場からサギソウ園まで道標を設置し、多くの方がサギソウ園を訪れ、花を觀賞する様子が見られた。
- ・ ビジターコテージ研修室及びサブコテージの有効利用として、イベントで使用しない空き時間に部屋の貸し出しを行い、合計 36 回の利用があった。また、高等学校陸上部による園内の利用は 81 件あった。

イ) 自然体験型のイベント及びプログラムの実施に関する業務

感染症対策を徹底したうえで、146 回のイベント(うち自然体験型イベントは 107 回)を実施した。施設利用者の満足度は 93.4%(自然体験型イベントは 96.0%)となり、令和4年度と同様に高水準となった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、ほぼコロナ禍前の条件でイベントを開催できたことが要因と考える。

イベントの実施回数は令和4年度よりやや多く、申込数の増加に対応するため、可能な限り1日に2回以上開催するなどの工夫をした。

・ 自然体験イベント

令和4年度に引き続き「伊賀や三重の自然の面白さや大切さを子どもたちが感じられる」プログラムを開催し、特に「直接生きものと触れ合える機会」を多く取り入れるよう企画した。具体的には、「昆虫観察会」(5月、6月、2月)、「田んぼの生きもの観察会」・「カエルを飼おう！」・「夜の虫ライトトラップ」(7月)、「セミの羽化観察会」(7月、8月)などのイベントが挙げられる。これらのイベントは令和5年度も申込が多くアンケートの満足度も高かったことから、参加者のニーズと学習効果の高さを再確認できる結果となった。また、外部講師を招いた「竹で生きものを作ろう」(8月)、「星空観察会」(9月)などを開催した。

・ 子どもの生きる力や主体性を育むイベント

令和3年度よりスタートした「参加者が自ら考え、試行錯誤する中で生きる力や主体性を育むことのできる企画」の第3弾として、「お楽し森の学校」(7月～11月に5回開催)を開催した。子どもたちは里山のフィールドで自分の楽しいと思うことを考え、自分の力で形にするという内容のプログラムを実施した。リピーターも多く、最終回にはツリーハウスの新設や、ササの秘密基地作り、滑り台やブランコの設置など、自分の描いた夢を実現した。子どもが伸びやかに活動するなかで、驚くような能力を発揮する様子が見られる貴重なプログラムとなった。

・ 近隣のグループや団体との共同イベント

「乗馬体験」・「花火大会 チャリティーイベント」(4月)などのイベントを開催した。ボランティアグループである「モリメイト」と協力し、「くぬぎの森づくり」(11月)、「落ち葉を集めてカブトムシを育てよう！」(12月)、「しいたけ菌打ち体験」(2月)を開催した。また、近隣小学校(9月、10月、11月、1月)や富貴の森こども園(7月、3月)にネイチャークラフトの出張プログラムを行った。

・ 子どもが地域の自然環境に興味関心を持つきっかけを広く提供するイベント

「みえ森と緑の県民税」を使った「伊賀の森っこ育成推進事業」を活用して伊賀市の小学校、保育園、市民センターなどを対象に、14回の自然体験プログラムを開催し、計 526 名の子どもたちにプログラムを提供した。

・ 「外国にルーツのある方」や「発達障がいを持つ子ども」を対象にしたイベント

「外国にルーツのある方」や「発達障がいを持つ子ども」の受け入れ体制を整え、多言語での対応や障がいの状況に応じたプログラムとして、JICA 中部との協働による「国際交流 森で遊ぼう」(4月)や発達障がいを持つ子の保護者会との共催による「虹の森のゆうえんち」(5月、12月)を開催した。

ウ) 三重県上野森林公園内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務

- ・ SNS 等を利用した情報発信に努め、令和5年度はウェブサイト、Facebook 及び Instagram を合わせて 216 回(令和4年度は 213 回)更新した。
- ・ イベント情報を中心とするメールマガジンを、イベント参加者やウェブサイトからの希望者(566 件)に、原則月1回配信した。
- ・ 伊賀ケーブルテレビとの連携を引き続き強化し、公園の自然情報及びイベントの取材が 23 回あり、毎月発行される情報誌に公園の自然情報が掲載され、公園の認知度が向上した。

- ・ イベント情報を掲載した「上野森林公園通信」(A4フルカラー)等を伊賀市内の小学校の全児童へ1、2ヶ月に1回配布を行い、近隣地域に積極的に情報を発信した。令和5年度は全7回の配布(累計約46,000部)となった。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・ 植物管理、清掃管理、日常点検、遊具・建物施設などの定期点検、巡回警備、修繕業務などにより、施設を清潔かつ快適に維持し、機能を適正に保持するとともに、異常箇所の早期発見により、利用者の安全な利用を図れるよう努めた。
- ・ 植栽木は、適正な剪定を行うことにより、良好な景観の維持に努めた。日常的にウォーキング等で訪れる利用者からは「生垣の形が整い生育が良くなった」という声を多く聞くことができた。森林内の植生管理については、マツノマダラカミキリによる赤松の枯死被害木を、「モリメイト」と協力して100本以上を伐倒処理し、倒木などによる事故防止に取り組んだ。
- ・ ビジターコテージ周辺の花壇は、季節ごとにガーデンの花を楽しめるよう育成を行った。シカの食害の少ないマリーゴールドやサルビア、セージ、ラベンダーを中心に植栽を行い、年間を通じて花壇を彩ることができた。コテージ周辺で花を愛でながら休憩する方や、花を前に記念撮影する家族など、利用者が思い思いに過ごす様子が見られた。
- ・ 園内設備について、建設から25年経過しているため、多くの場所で老朽化が進んでおり、今後も修繕の必要箇所が増加すると思われる。公園内に多数ある木柵、木道、木階段などについては補修が必要な箇所の発生ごとに、随時補修作業を進めている。一方で、湿性植物園内の通路及び、風の砦の老朽化による立入禁止措置など、公園内のいくつかの施設が十分な機能を発揮できず、サービス低下につながっている。

③県施策への配慮に関する業務

- ・ 「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除などに努めた。乾燥化が進んでいる湿性植物園において、試験的にハンノキの抜根を行った。また、生物多様性の普及啓発に努めたほか、みえ森林教育ビジョンの推進に向けた自然体験保育の取組として、子育て支援団体と協力し「てくてく探検隊」を年間24回開催した。
- ・ 「みえ森と緑の県民税」を活用した「森林とふれあう自然公園環境整備事業」を受託し、「みんなで作るウッドフェンス」(2月)を開催した。大工の指導のもと、参加者が協力してビジターコテージのウッドフェンスを設置したことから、公園に残るものを自分たちの手で作成できたと好評であった。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・ 「三重県上野森林公園の管理に関する情報公開実施要領」を策定し、対応した。
令和5年度請求件数:0件

⑤その他の業務

- ・ 令和5年度における事故は0件であった。

(2)施設の利用状況

公園施設全体の利用者数	成果目標	令和4年度実績	令和5年度実績	達成率
	82,000人	116,026人	119,276人	145.5%
顧客満足度	成果目標	令和4年度実績	令和5年度実績	達成率
① 施設利用者	80%	93.3%	93.4%	116.8%
② 自然体験型イベント参加者	92%	96.4%	96.0%	104.3%

2 利用料金の収入の実績

指定管理をしている箇所で利用料金を徴収している箇所はなし。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R4	R5		R4	R5
指定管理料	27,563,000	27,563,000	事業費	3,487,198	3,616,920
利用料金収入	0	0	管理費	25,188,394	25,102,713
その他の収入	1,331,658	1,415,668	その他の支出	0	0
合計 (a)	28,894,658	28,978,668	合計 (b)	28,675,592	28,719,633
収支差額 (a)-(b)	219,066	259,035			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

	施設利用者数	施設利用者の満足度	自然体験型イベント参加者の満足度
成果目標	82,000 人	80%	92%
成果目標に対する実績	119,276 人	93.4%	96.0%
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者数について 目標を大きく上回り、過去最高の利用者数となった。月別では、5月、7月、9月、12月、1月が過去最高となっている。これは令和元年度から伊賀市内の小学校の全児童に学校経由で「上野森林公園通信」をほぼ毎月配布する事業を継続したことによる認知度の向上のほか、地元のケーブルテレビと連携し、近隣住民に向けた公園利用の情報提供や PR 活動に取り組んだ成果と考える。また、「ペットと散策できる公園」について PR したことにより、犬連れの利用者の飛躍的な増加につながったことから、令和6年度は公園利用の潜在的ニーズを調査し、新たな公園の利用形態を創出することにより、多様な利用者層にアピールしていきたい。 ・イベントについて イベント申込みの増加を受けて、可能な限り実施回数を増加することで対応するとともに、施設利用者及び自然体験型イベント参加者の満足度も高水準が維持されたことは、プログラムの質の向上に努めた結果といえる。「外国にルーツがある方」や「発達障がいを持つ子ども」を対象にしたプログラムを試行することができ、好評を得た。今後はさらに内容を拡充していく。 ・セルフサービスの充実 散策しながら自ら自然のことを学ぶ「セルフガイドシステム」の効果的な運用に努める。季節で変化する公園の見所に合わせたセルフガイドボードを約 50 箇所に設置し、自然の美しさや面白さ、不思議さに気づききっかけとなるような内容を今後も充実させていく。また、セルフで楽しめるウォークラリーの開催のほか、公園を楽しむツールとして、ハンモックや双眼鏡の貸出なども積極的に行う。 ・公園利用方法の提案 公園を自由に散策してもらうとともに、季節ごとのオススメの場所や散策コースの紹介や、公園の新しい楽しみ方の提案などの情報提供を積極的に行い、公園の魅力度のアップに努める。また、引き続き「ペットと散策できる自然公園」の PR など多様な利用方法の提案に努める。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境について 園内は湿地が多く、特殊な環境にしか育たない希少な動植物が多数生息している。その中で外来種の侵入や遷移などの影響により、湿地環境が悪化している場所も多く存在する。そのため外来種の駆除や湿地環境の整備、園内の希少種や在来動植物群の再生を継続的に行う。湿地の再生活動は参加型イベントとして企画し、参加者とともに湿地の生物調査や湿地の環境改良を行う。同時にその活動自体が参加者の学びや交流の場へと醸成されることをめざし、ひいては、環境保全活動の実践の場へと発展させることをめざす。 ・公園の景観について 「公園の自然と調和し、親しみやすいデザイン」というテーマを継続し、特に利用者から要望の多い老朽化した各種案内看板のリニューアルを随時進める。 花壇は、シカによる食害が少ない品種を中心に育成し、四季折々華やかになるような管理を行う。 ・ボランティアについて ボランティアグループである「モリメイト」については、引き続き広く広報するとともに、楽しめる活動を行うことで会員を増やしていく。特に、若い世代の加入者を増やし、活動の活性化をめざす。
--	--

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B	普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めることができたが、まだ修繕の行われていない箇所についてはより注意していく必要がある。
2 施設の利用状況	A	A	年間施設利用者数の目標達成率は、A評価基準を上回り 145.5%となった。
3 成果目標及びその実績	A	A	施設利用者の満足度、自然体験型イベント参加者の満足度ともに目標を上回ることができた。

※評価の項目「1」の評価 :

- 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
- 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
- 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

- 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 当初の目標を達成している。
- 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
- 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

<p>総括的な評価</p>	<p>施設利用者数は、令和4年度に引き続き過去最高を記録した。多様な利用形態が見られ、特に犬連れの家族の利用が急増し「ペットと一緒に自然を楽しみたい」という潜在的なニーズを利用行動につなげることができた。日常的に訪れる利用者も増加し、憩いの場へベンチやテーブルなどを設置したところ、毎朝、来園者間で交流する様子も見かけるようになった。引き続き人と自然のみならず、人と人をつなぐ活動を継続していきたい。</p> <p>イベントは 140 回以上開催するとともに、イベント参加者の満足度も高水準となった。質の高いプログラムを広く提供することを通じて、「地域の自然環境に興味を持つきっかけ」を作ることができたと考えられ、「参加者が体験や交流を積み重ねることのできるプログラム」は、企画内容を充実したことにより、リピート参加する人も増えた。</p>
---------------	--

<p>また、「外国にルーツがある方」や「発達障がいを持つ子ども」を対象としたプログラムの開催については順調にスタートを切ることができた。今後も体験機会の増加に尽力したい。</p> <p>今後も、障がいの有無や、国籍などに関わらずあらゆる人が自然を楽しみながら学び、発見できる機会や癒しの場を提供するとともに、自然環境の保全に配慮した管理業務を行っていく。</p>
